



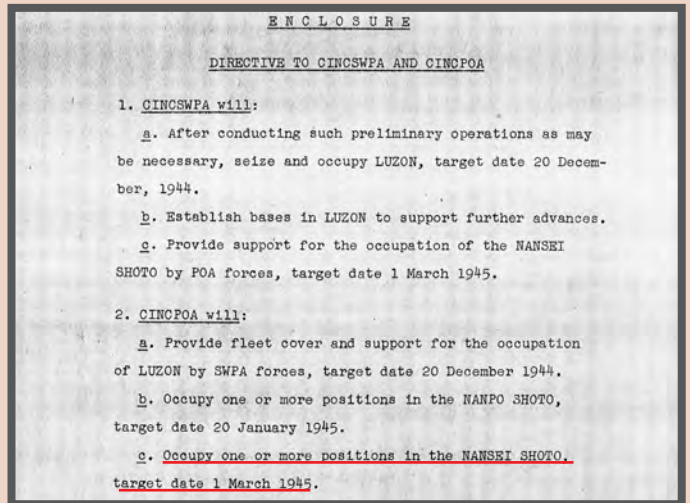
南西諸島占領の計画

▶台湾作戦から琉球作戦への変更

第二次世界大戦末期の1944年、米軍は日本を降伏させるため、台湾を侵攻して前衛基地を建設しようとしていました。

しかし、フィリピン侵攻が早いペースで進み、そこに米軍基地を確保出来る見込みができたため、台湾侵攻作戦をとりやめ、小笠原・琉球作戦を進めることになりました。同年10月3日、米統合参謀本部は太平洋地域司令部(CINCPAC)に対して、南西諸島の占領を発令しました。

このとき沖縄では、1944年創設の第32軍などの日本軍部隊が続々と移駐し、沖縄の住民を全島要塞化のための飛行場建設や陣地構築に動員していました。



〔国防総省 / 統合参謀本部文書〕
「(00168-001) CCS 381 Pacific Ocean Area (6-10-43) : Operations Pacific Ocean Area (Section 9)」
統合参謀本部統合参謀本部から太平洋総司令部への指令
1944年10月3日 資料コード 0000064615
赤線部分には「1945年3月1日までに南西諸島で拠点一つ、あるいはそれ以上占領するように」と書かれています。実際の上陸は3月下旬になりました。

▶10・10空襲

1944年10月10日、米海軍艦載機が南西諸島全域を5回にわたって空襲しました。このいわゆる「10・10空襲」は沖縄各地に大きな被害を与え、とくに中心地である那覇市は壊滅状態になりました。米軍は、沖縄侵攻作戦のために必要な地形情報を得るため、空襲時にもたくさんの空中写真を撮影しました。



〔ゴードン・ワーナー文書〕「空中写真 10.10 bombing 2, 10・10空襲 2」
10・10空襲時の那覇港及び旧那覇市街
1944年10月10日 資料コード 0000106165



〔国防総省 / 空軍文書〕「米空軍写真コレクション 第二次大戦シリーズ 02」
10・10空襲後の廃墟となった旧那覇市街
1944年10月10日 資料コード 0000112235 写真番号 14-11-3